

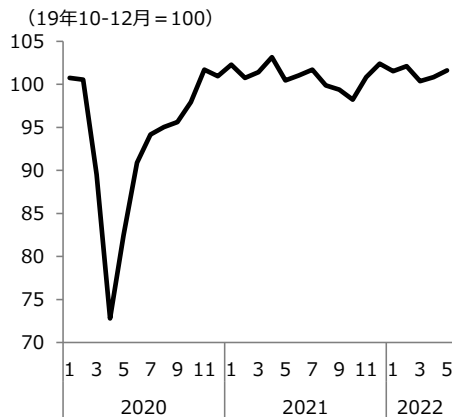
## 欧州

鉱工業生産（2022年5月）

## 生産は回復、エネルギー供給不足が先行きのリスク

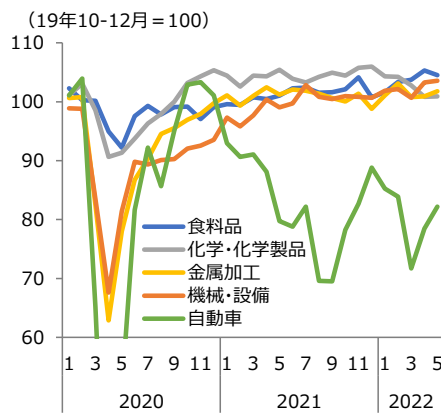
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

## 1 鉱工業生産（ユーロ圏）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

## 2 鉱工業生産（ユーロ圏、主要業種）



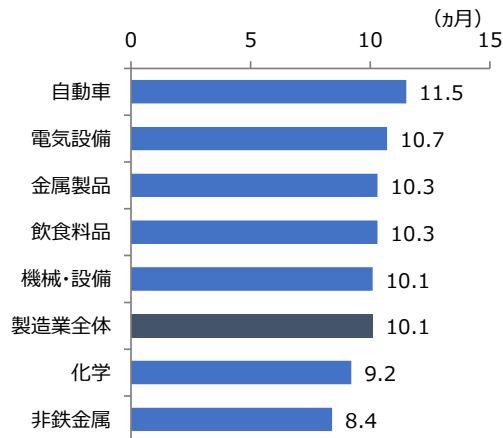
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

## 3 消費者マインド（ユーロ圏）



出所：欧州委員会より三菱総合研究所作成

## 4 供給制約の継続期間見通し（ドイツ）

注：ドイツ企業に対する6月時点の調査。  
出所：ifo instituteより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 22年5月のユーロ圏の鉱工業生産は前月比+0.8%と2カ月連続の増加（図表1）。投資に用いられる資本財が同+2.5%と21年12月以来の増加。
- 業種別では、自動車が2カ月連続で増加（前月比+4.7%）したが、他の産業に比べ回復は遅れている（図表2）。半導体などの既往の供給制約に加え、ウクライナで生産している自動車部品の供給停滞が生産に影響を与えている。
- 主要国では、フランス（同▲0.1%）、スペイン（同▲0.3%）が小幅減。ドイツ（同+0.1%）は2か月連続の増加をкаろうじて維持したが、コロナ前（19年10-12月）の生産水準を約4%下回っている。

## 基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の生産は、均してみると横ばい圏内で推移している。
- 先行きのユーロ圏の生産は弱い動きが続くとみる。
- 需要面では、内需の回復が弱く、外需は米中経済の減速懸念が高まっている。経済活動再開や雇用・所得環境の改善は内需にプラスとなるが、物価高とロシアのウクライナ侵攻で消費者マインドは急速に悪化している（図表3）。
- 供給面では、原材料などの供給制約が生産回復の重しとなる。欧州委員会の調査では、生産の制約要因として「設備・原材料不足」をあげる企業の割合は高止まりしている。また、ifo経済研究所の調査（22年6月）によると、企業は供給制約の長期化（自動車は11.5か月継続）を予想している（図表4）。
- 先行きのリスクは、エネルギー供給不足だ。ドイツ向けに天然ガスを供給するノルドストリームは供給量が6割削減されているほか、現在の定期検査終了後に、報復措置として供給が再開されない可能性が指摘されている。ドイツは天然ガスに関する緊急計画の第2段階である「警戒」をすでに発令しているが、第3段階の「緊急事態」になると、政府がガス供給に介入し、生産活動に制約が生じる。エネルギー供給が不足すれば、生産は大きく下振れるだろう。